

(特別) 音楽鑑賞会／邦楽ドラマ

山本周五郎原作、山本陽子主演「紀尾井小ホール」

音楽鑑賞会の新たな試みとして、3月6日(水)邦楽ドラマ(朗読劇と邦楽演奏が融合した新しいスタイルの舞台、邦楽ドラマシリーズ)を開催いたしました。参加者は6名。

演題『松廼家おけい』

江戸時代、真の三味線音楽を求め中藤冲成は江戸を立った。



おけい (山本陽子)

東京・柳橋の置屋「松廼家」の娘として生まれ育った芸者。ある日向こうの座敷から聞こえてきた沖也の端唄に聴き惚れる。沖也と旅をともにし、献身的に尽くし、最期を看取る。

上方から北国街道・雪の山中を遍歴。

道半ばにして今庄の地で倒れた沖成のもとに集まった女たちは・・・。

山本周五郎の名作を江戸端唄の第一人者・本條秀太郎の演奏とドラマ・リーディングを鑑賞した。

【ものがたり】

山本周五郎原作『虚空遍歴』を元に、端唄で一世を風



本條秀太郎 (演奏)

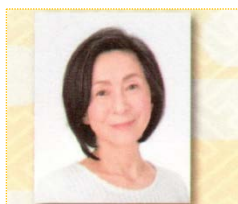
靡した中藤冲成が、浄瑠璃作家として名をなそうと苦闘し、ついに客死した半生を、死の床に集まった女性たちの話を通して描く朗読劇。

劇中音楽は江戸端唄の第一人者、本條秀太郎が本作品のために

すべて作曲。劇中の演奏も担当し、まるで冲成がそこに居るかのような幻想的な世界が浮かび上がってきます。

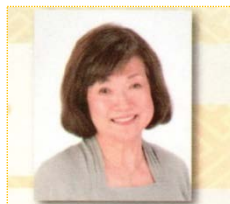
【冲成をめぐる女性たち】

おけいは東京・柳橋の色街育ちの元芸者。冲成の芸を聴き、毛虫が蝶になったような身震いを受け、その芸を慕い、冲成に献身的に尽くすようになります。そのおけいと、冲成の死の床に集まった女たち、正妻のお京、乳母のお幸、宿の女中おなつ、4人の女性たちが胸に秘めた思いを語りだします。(服部英則・記 チラシより抜粋)



正妻・お京 (磯西真喜)

沖也とは幼なじみ。沖也の端唄に心酔している。次第に浄瑠璃へ傾倒し、突然上方へ旅立つ沖也を深く見送る芯の通った女性でもある。旅先の沖也を案じていた。



乳母・お幸 (岡本瑞恵)

旗本の次男であった沖也は生まれてから幼少期まで乳母に育てられた。沖也に置いて行かれたお京が不憫でならず、またお京から沖也を奪ったと思ひ込み、おけいに苛立ちを隠せない。



おなつ (今村祥佳)

沖也が床に臥せ、息を引き取った宿の若い女中。